

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079000065		
法人名	有限会社 ミモレ・ダイコク		
事業所名	グループホーム「やまびこ」 (東ユニット・西ユニット)		
所在地	福岡県みやま市山川町河原内1224番地		
自己評価作成日	平成28年12月20日	評価結果確定日	平成28年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JixvosvoCd=4079000065-00&amp;PrefCd=40&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JixvosvoCd=4079000065-00&amp;PrefCd=40&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成28年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設13年目を迎えたグループホーム「やまびこ」は、中庭の梅・桃・桜等の四季折々の花や風物を楽しんで頂ける山里の自然豊かな環境の中、全室南向きの居室を備えた2ユニットのグループホームです。穏やかな日の光が差し込むリビングでは、一日をのんびり・ゆったり・思いのままにお過ごし頂き、のどかな自然の中の散歩や外出を楽しんで頂けるよう支援しております。多年にわたりご利用頂いた高齢の皆様やご家族様に、多くの思いや人生の重みを学ばせて頂き、日々の支援に活かしながらより良い介護支援を模索して参りました。この思いを土台に、ご利用頂いている皆様の思い出多い人生を大切に、個々の力を活かしながら、スタッフ考案のやまびこ体操や個別リハビリに取り組みさせて頂いております。笑顔の毎日やその方々にあった暮らし方が出来るよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街を抜けた自然豊かな場所にあり、生活環境に適した施設である。建物の中心には天窗があり天井も高く、明るく、居心地の良いホールで食堂としても利用している。食事前には職員と共に口腔体操を行っている。全ての居室は窓から明かりが入り過しやすい、入口には、職員が描いた似顔絵が掛けられ、利用者に対応された工夫をしている。廊下には行事で出掛けた時の写真や「やまびこ」の理念も掲示されていた。代表者・管理者・職員とのコミュニケーションも良好である。ターミナルケアも数多く経験されている。夜勤体制の職員の不安に対しても、代表者が毎晩宿直し職員への不安解消などに配慮している。避難訓練に関しても、新しい通報装置を設置し全職員が対応出来るように指導している。運営推進会議に民生委員を増やし、利用者に必要な支援などを話し合い運営に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町で、思い出多い人生を大切に、お一人お一人の思いに寄り添う支援を理念とし、日々の支援の実践に活かしている。	事業所名の「やまびこ」の頭文字をモチーフに、「安らぎ・真心・ぴったり寄り添い・心の声を聴き、声掛け」がグループホーム「やまびこ」の理念である。全職員が敬う心を持ち利用者に接している。利用者が望むことを確認し応えることを基本に出来る限り希望に叶えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設13年目を迎え、地域の行事参加や施設行事の地域参加が毎年の定例行事として定着している。日常生活では、毎日の散歩での交流がある。	地域の自治会に加入し、地域の方々との繋がりも強く、事業所開催の行事にも参加を呼びかけたり地域の行事にも積極的に参加している。市の総合支援事業所として活動し、事業所で行うリハビリ体操や手工芸の催しにも地域住民へ参加を促し開放をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員会への参加や、地域のいきいきサロンの参加、視察の受け入れ、学校での勉強会での講師参加等、地域の方々に向けての積極的な取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年より、地域の民生委員2名の方々に新たに会議の委員として参加頂き、毎月の報告と共に地域の現状や貴重な意見等多く頂いている。会議での新たな気付を支援に活かしている	新しいメンバーに民生委員を加えて、運営推進会議の協議内容を密にし、今後の介護保険改正やさまざまな問題に取り組み、利用者や家族へ安心した生活を提供できるように工夫している。職員には申し送り等やスタッフ会議などで報告し運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型のサービスとなる以前より、地元の市の担当者とは、日常的に何事も相談・報告ができる関係性を保ち、地域の高齢者支援を支える為の協力体制に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体及び心の梗塞を行わないことの重要性を十分に理解し、毎月の会議で検討を行っている。毎年の勉強会での研修や確認を行い、玄関の施錠は元より、心の解放とリスク管理・危険回避に取り組んでいる。	マニュアルや月次のスタッフ会議で、身体拘束をしないことを旨に日頃より取り組んでいる。家族より、状態状況に応じて身体拘束の申し出がある場合には、相談をし承諾書を交わしている。その際には、常に家族への報告を行い利用者支援にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議での学習で理解を深め、日常生活の中の多岐に渡る虐待行為を見逃さず、配慮ある行動が出来るように努める。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年の勉強会や社外での研修会等で学ぶ機会を多く持ち、理解を深めるように努めている。現在、利用者様の中で日常生活自立支援事業を利用している方がいる。	権利擁護については、資料や内外部研修に参加し、会議や申し送りを通じて職員へは通知している。現在は日常自立支援事業を利用されている利用者は少ないが、施設としていつでも対応ができるように年間スケジュールを立て、全職員が理解できるように工夫している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・相談の際の説明や、契約時には丁寧な説明を心がけ、十分な理解が頂ける様に努めている。法改正や改定時には、書面での十分な説明と個別の説明や不明・疑問点の問い合わせに対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様が、気軽に意見や要望を出していただけるな関係性を作り上げる努力を行っている。多くの要望がある方や全くない方もあり、個々の働きかけを行っている。	家族からの意見や要望は、面会時や月次報告時をお願いしている。家族からの意見や要望が言いやすい関係が持てるように工夫している。意見や要望がない家族への対応を課題として取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や、委員会の設置、委員会ミーティング等、スタッフの意見を聞ける機会を多く持ち、スタッフの意見が反映するように努めている。	職員からの意見や要望については、月次のスタッフ会議や全職員が参加している各委員会を通じて取り組むようにしている。事業所運営や利用者支援に活用し、また、その記録等も残して今後の運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護支援の難しさや日々の介護の気付き等、其々の能力・努力を適正に評価できるように努めている。自己啓発や資格取得の為に勉学を奨励し、やりがいのある職場や働きやすい職場を目指し環境整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集・採用においては、一番に利用者の方々の笑顔に繋がる介護支援が出来る事や温かな対応・多くの気付きが出せる等を優先し選考する。職員は其々の個性・能力を十分に発揮し、利用者様との信頼関係を築いてほしいと願っている。	職員雇用については、利用者に対する敬う心と思いやる心を重要視している。内外部の研修や会議等で職員へのスキル向上や利用者に対する支援を行っている。新規職員の職務については、現任職員と一緒に業務を行い利用者支援にあたっている。利用者・家族から安心され信頼が得られるよう指導している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	研修での学習の他、毎月のスタッフ会議では、必要に応じ人権擁護・啓発活動に触れ、入居者様の人権尊重に努めている。	利用者人権尊重に際しては、スタッフ会議等や各委員会を通じて職員に周知している。毎日の業務の中で慣れが生じ、言葉づかいや接し方に問題がある場合には、その場ではなく別の場所で職員へ注意を促している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を多く持ち、個別の学習を奨励しながら能力にあった実習を重ねていくよう努めている。新人には、十分な時間の研修を確保し他の職員には、外部の研修参加も奨励したい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会や交流会に参加し、参考となる意見の集約に努めている。多くの職員が参加する機会を持ち、他の施設の取り組みに啓発されるよう努めたい。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に、入居者様の人生背景や思い等あらゆる情報を収集し、話題の共有に努めている。特に、初期段階での関係性の確立には、十分な配慮を行いご本人様の思いや価値観を知る機会を多く持つように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、ご家族様との面会の機会を多く持ち、ご家族様の思い、これまでの生活支援、要望等を多く話して頂けるよう努めている。初期の信頼関係の構築に十分な配慮をしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様との面談時、まず何を一番必要としているか、何が不足しているかを十分に話し合い、いくつかの提案を選択の幅を広げるよう努めている。その為、利用開始に至らない場合もある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、集団生活の中で其々の力を発揮しお互いが良きお仲間として、相談相手や家族・友人としての声かけや関係性を築いて頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者さまにとって大切な家族の絆を充分に感じて頂けるように支援している。必要に応じ、密に連絡を取る・来所を支援する・ご家族様の悩みに対応する。行事には、多くのご家族様の参加がある。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「住み慣れた町で、懐かしい心を大切に」を理念とし、地域の方々や以前より交流があった方々との関係が維持できるように、面会・行事参加・外出の機会を多く持つよう努めている。	家族や友人・知人がいつでも面会に来所しやすいよう配慮されている。毎日将棋を指しに来所する方を楽しみに心ワクワクしている利用者もおられ、笑顔があった。散歩を希望される利用者に対しても事業所の周りを自由に散歩出来るように工夫している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の交流関係・好み・相性等を考慮し、テーブルの配置や散歩支援。交流支援に配慮している。交流困難な方はスタッフが間に入る等、穏やかな関係性が保たれるように心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も交流を継続し、行事の参加や協力支援の援助を頂いている。又、ご家族様の相談を受け、本年より親子でのご利用に繋がった。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との毎日の会話や、ご家族様の面会時に伺う話の中より、ご利用者様の思いや暮らし方の希望・意向を把握し、その実現に向けスタッフ会議での話し合いを行っている。	利用の思いや意向を把握し、日々ケアを行っている。朝礼時に報告を行い、スタッフに伝えている。	日々のかかわりの中で声掛け、思いや意向の把握に努めている。毎日の会話の中からアセスメントを詳しく行い、日頃の生活状況や趣味、嗜好などの情報収集し記録して職員が共有しその人らしく暮らし続ける支援に繋がることを期待する。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご家族様からのあらゆる情報を収集し、又、今までの生活支援やサービスの利用状況の把握に努め、馴染みの生活が出来るように配慮している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様が望まれる生活が送れるように、個別支援に努め、有する能力が低下しない支援を心がけている。笑顔や満足度の高い生活になるように配慮している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日訪問頂くご家族様やご親族様と共に、ご利用者様にとってより良き生活支援を考案する為協力頂いている。定期的に現状把握を行い経過支援による介護計画作成を行っている。	介護計画担当者は、職員のケア観察や利用者、家族の意見を反映し介護計画書を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や問題点を記録しスタッフ間の情報の共有に努めている。毎日の生活での気づきや改善点は、スタッフ間の話し合いやスタッフ会議での検討課題として解決策を模索し計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	望まれる生活の支援を念頭に、可能な限り一人一人のニーズに応えるよう支援を行っている。ご利用者様の希望により、家族様の入院先へのお見舞い支援やご高齢の家族様の相談・支援も柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中での資源として民生委員・地域サロン・ボランティア・介護福祉施設等が協力し、生活の安全を見守りながら、住み慣れた町での生活が継続できるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様の希望によりかかりつけ医の治療の継続を支援している。又、在宅医療との連携で24時間の医療連携体制をとり、体調管理・早期発見治療に繋がるように努めている	かかりつけ医の受診は利用者、家族の希望に応じている。家族が同行できない場合、職員が代行するようにしている。訪問診療を受けられる体制もあり、複数の医療機関との関係を築いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年より2名の看護師が入社し、以前より利用の訪問看護との連携を深め、体調管理や適切な看護助言が介護の現場で活かせるように協力している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護記録の必要な情報提供を行い、ご利用者様が安心して治療が受けられるように支援している。環境の変化による機能の低下に繋がらないように早期退院に向け連携を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時の説明において事業所の方針や対応を説明し「終の棲家」としての役割を果たしながら可能な支援等の選別を行っていく。終末期でのご家族様の揺れる思いに寄り添いながら、医療機関との連携に努め、尊い人生の終焉を看取りたいと願っている。早期の医療機関移動も可能である。	グループホームやまびこでは看取りの経験が数多くある。終末期では家族の方が毎日通って看病することがあったと伺う。代表者が毎日、施設に当直し、利用者の終末期、病変、異常に早々対応でき職員に指示が出せる協力体制を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議での研修や研修会での訓練、外部講師による勉強会を行い、急変時や事故発生時に備える。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法は、会議での確認と共に避難訓練での実践で対応している。地域の消防団や近隣の協力を得る為、日頃より働きかけを行っている。	夜間の火災を想定してスタッフ全員が訓練できるように3日かけて行ったと聞き取る。緊急通報の手順が装置を変えたことで無駄な時間が無くなり少しでも利用者の安全を優先し避難訓練、災害訓練を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人一人の生活スタイルやプライバシーを尊重し、人生の大先輩として敬意を払い、年長者としての対応が適切であるように心がける。接遇委員会での検討も行っている。	接遇委員会を結成している。尊厳を重視し、目上の方の対応、敬う心等を月1回の会議で話し合いを行い、職員と共有出来るよう朝礼で報告を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	多くの要望がある方や、思いを伝える事が出来ない方の願いの把握に努め、色々な思いに寄り添い、又声なき声に耳を傾けての支援を行っている。多くの機会に自己決定がなされるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご高齢での集団生活開始を常に考慮し、今までの思いや生活が継続できるように、日々の支援に努める。其々の人生感や生き方・暮らし方を優先し集団生活の規律ばかりを優先しないように配慮する。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や個別の美容室への外出支援、皮膚科の受診支援等希望に沿うよう心がけている。お好みの衣料品の購入支援も行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや行事食作りの参加や、食器の片付けトレー拭き等、一人一人の能力に応じた参加が出来るように支援している。食事のリクエストボードが有、色々なリクエストに応えている。	年々認知症、身体機能低下が進み、一緒にできる方が少なくなってきたが出来る限り、利用者が出来る事を見つけ見守りながら行っている。おやつ作り、又は梅干し、らっきょ作りも行われている。	



自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の能力に応じた形態で食事を提供している。バランスのとれたメニューや馴染みのメニューで楽しく食事や水分摂取が出来るよう工夫している。季節のメニューを取り入れている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時・食後に口腔ケアを支援している。多くの方が自立でのケアが出来ない為、介助を行っているが、声かけなくご自分で食後の歯磨きを習慣化している方もいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のある方はその都度、ない方や間に合わない方には、定期的に声かけやトイレ案内を行い、トイレ利用を支援している。	日々の排泄記録があり、一人ひとりの声掛けや誘導が行われている。個人ファイルにも記載され排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を習慣づけるように努力されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご高齢の方に多い水分不足が病気の因子にならないように、毎食・おやつ水分摂取の他にペットボトルやマグカップの利用、食物繊維の多い食材の利用や運動に取り組んでいる。夏のゼリー作りや、冬のみかんも喜ばれている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴のペースに合わせて楽しんで頂いて。一番風呂が好きな方や、毎日入浴したい方や好まれない方と要望は色々であるが、水虫や浮腫の対応として足浴も行っている。	二人体制で入浴を行っている。一人は声掛けを行い、利用者を誘導し、入浴剤を使い気持ちよく楽しめるように努めている。拒否される方は時間をおいて再度誘導したり、家族に声掛けを行ってもらったりと利用の気持ちを優先して支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や心身の状態に応じ自由に休息をとって頂けるように支援している。又、夜間安心して休んで頂けるように夕食後はゆったりと時間を過ごし遅めの就寝を支援している方もいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指導を受け、一人一人の薬情をスタッフが理解するよう努めている。薬の誤飲防止の為3度のチェックを行い、飲み込みチェックが必要な方の支援や症状の変化に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、個々の力に合った役割や出来る事を支援、毎日のレクリエーションや散歩・趣味の将棋やし好品・たばこなどが楽しみの一つになっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院の受診や散歩・外出支援、外食等、ご本人様の希望に応じている。ご家族様や知人の方との外出が多い方や、外出を好まれない方もあり、ご希望に沿った支援を行っている。	地域の支援事業に参加したり、職員、家族と買い物、外食等を楽しんでいる。散歩をする利用者もおり、施設内の庭に出て鑑賞することもある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の希望や能力に応じ、又ご家族様了承での自己管理を行っている方もある。スタッフに買い物を頼んだり、外出時の買い物を楽しまれる方もあり、紛失防止で預り金管理を行っている方が多い。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に応じ電話を掛けたり、ご家族様からの電話を取り次いでいるが、聞き取れない方も多く代替りの対応を行っている。ご家族様宛の手紙や伝言・写真等も喜んで頂いてる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度、遮光・雰囲気等、ゆっくり・のんびりお過ごし頂けるように配慮している。又、四季折々の花や飾り物で、季節を感じて頂けるように工夫している。	玄関ホールからリビングまで天井が高く圧迫感を感じない、室温も温かく、リビングは天窓から外の光を取り入れ明るい雰囲気がある。利用者も椅子に腰掛けゆっくりと過ごしている。各部屋の入口に、利用者の似顔絵を掲示し、心が和む工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関奥や台所横・リビングの片隅にスペースを作り、一人や少人数での休息や会話を楽しく頂けるように工夫している。又、リビングでは同テーブルの気のあった方々の会話が弾んでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様やご家族様の希望で、ご自宅で利用されていた家具や電化製品を持参され、過ごしやすい空間となるように支援している。居室の整理や季節の入れ替えなど希望に応じて支援している。	居室は過ごしやすいように使いなれた家具を持ち込み、自宅に合った雰囲気になるように工夫していた。認知症で物を置けない方もいるが、少しでも居心地のよい居室になるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力に合わせ、手すりやシルバーカー・車椅子等を使用し安全にお過ごし頂けるように支援している。掲示物により分かりやすい生活の場を提供し、出来る事の継続支援を行っている。		